

## KSTAC OB会夏山の記録（蝶が岳隊）

40C 中田

OBが大勢集まって夏山を楽しむことを目的に山行を計画しました。ここ数年の計画は初日に徳澤に泊まって皆でビールを飲むことにしています。

### 1. 計画の概要

7月28日（金） 上高地13:00集合⇒徳沢(テント泊)

7月29日(土)

- ・A隊 徳沢→長堀山→妖精の池→蝶が岳→徳沢⇒小梨平
- ・B隊 徳沢→2000mの平→長堀山→徳沢⇒小梨平
- ・C隊 徳沢散策⇒小梨平

### 2. メンバー

A隊：L梅村、SL松本、吉武、奥村、奈良部

B隊：L中田、SL加藤、清水、金清、萬

C隊：樋口、千葉

### 3. 7月28日（金）の記録

12名全員が上高地バスターミナルに集合し、徳澤に出発。

13:00 上高地バスターミナル 出発

13:45～13:55 明神

14:50 徳澤園着

到着後、テントを張って、缶ビールを買って乾杯。その後、各自持参の酒で宴会。翌日は3時起床なので、明るいうちに就寝。

#### 4. 蝶ヶ岳 A 隊記録

41M 梅村

##### ① メンバ

L 梅村、SL 松本、奈良部、吉武、奥村

##### ② 行動記録

2023年7月29日(土)

4:05 徳沢園 出発

4:45~4:55 1830m 休憩

5:20~5:30 2000m 休憩

6:20~6:30 2250m 休憩

7:40~7:50 長堀山

8:45~9:00 蝶ヶ岳

9:35~9:40 長堀山

10:45~10:55 2050m 休憩

11:45 徳沢園 着

##### ③ 感想(梅村)

未だ暗い4時から、ヘッドライトを点けて予定通りの行動ができました。蝶ヶ岳はずいぶん久しぶり。現役2年の時、春山で合戦尾根から大天井岳に登り常念岳を超え蝶ヶ岳まで縦走した事を思い出しました。

途中樹林の間から穂高連峰が見え隠れしていましたが、長堀山までは視界はゼロ。蝶ヶ岳手前でハイマツが出てきたら急に視界が開け、穂高連峰の大パノラマが広がりました。最初槍がピラミダルに見えて来て、前穂、北尾根、奥穂、北穂、大キレット・・・等素晴らしい眺めを楽しめました。

奈良部先輩、吉武先輩とも何年振り？にご一緒でき、若手の奥村さん、松本さんと楽しく登る事が出来ました。ありがとうございます。また、KSTACの諸先輩や仲間と徳沢園や上高地で酒を呑み話ができ、久しぶりに夏山に参加してよかったと思います。ありがとうございます。

## 5. 蝶ヶ岳 B 隊記録

40C 中田

### ①メンバ

L 中田、SL 加藤、清水、金清、萬

### ②行動記録

2023年7月29日(土)

4:05 徳沢園 出発

4:35~4:45 1746m 休憩

5:15~5:25 1882m 休憩

5:55~6:05 2016m 休憩

6:35~6:45 2152m 休憩

7:15~7:25 2338m 休憩

8:05~8:15 2499m 休憩

8:35~8:45 長堀山

9:30~9:40 2300 m

10:30~10:40 1967 m

11:15~11:25 1723m 休憩

11:45 徳沢園 着

### ④ 感想 (中田)

蝶ヶ岳山行の成否は B 隊が無事に下山できるかにかかっていると考え、精鋭の加藤を SL にした。加藤はその期待に応え、登り 30 分 150m のペースを確実に刻み、全員無事に長堀山に登ることができた。加藤以外は 39 期、40 期で 40 歳近い年齢の差があり、気苦労があったと思うが、よくやってくれたと思う。

39 期の三人は疲れた様子だったが、最後まで楽しそうにしている、山行を計画した私としてはうれしかった。

長堀山を過ぎてから展望が開け、穂高がきれいに見えるとのことだったが、B 隊としては長堀山が限界だったと思う。来年もこのメンバーで夏山の計画を立てたいと思っている。

### 感想 (金清)

今年の夏山は同期 (39 期) 3 人が卒業以来初めて勢ぞろいした山行になった。40 数年前を懐かしく思い出し、体力の衰えを感じつつ、木立の合間から見える前穂に元気づけられながら登った。それにしても長堀山までよく行けたものだと CL の中田さん SL の加藤さんには大変感謝しています。ありがとうございました。来年も同期そろい踏みで景色の良いところに行きたいものです。皆様よろしくお願ひします。精進しないと・・・。

## 6. 蝶ヶ岳C隊（徳澤散策）記録

①参加者：27 樋口 48M 千葉(記)

②記録

2023年7月29日(土)晴れ

6:00 起床

隣の高校生集団が4時過ぎより騒がしく、起床予定時刻よりも前に起き出していた。

7:00 出発

新村橋に向けて出発。ただし、橋の架け替え工事（R4～R9）のため、新村橋は撤去

されていた。したがって、横尾仮設道を通り、対岸に到着。

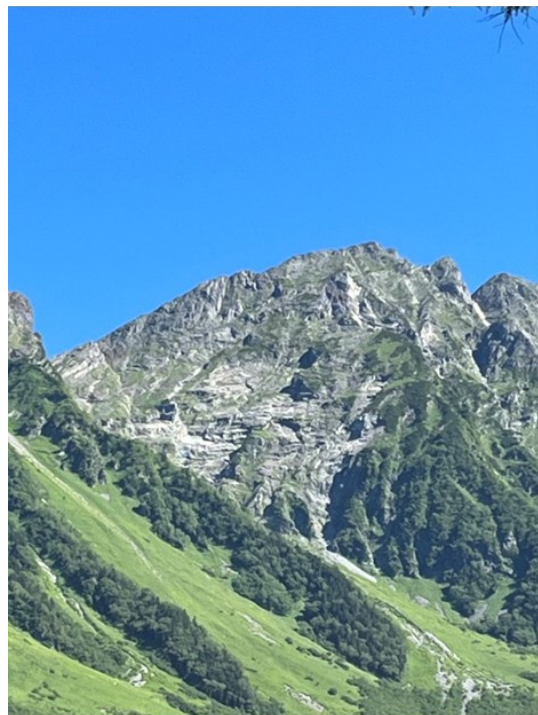
以後は、梓川右岸の迂回路を經由して、小梨平方面に向けて歩くことにした。

右岸は基本的には管理用車両通行路であるため、通常使用している左岸よりも道のアップダウンが少なく、さらに往来する人も少ないこともあり、静かな散策を楽しむことが出来た。

11:30 頃小梨平キャンプ場



横尾への途中、奥又の真正面



今回、妙に印象に残った畳岩